

7月における大豆の病害虫の発生状況は以下のとおりです。

巡回調査(23地点)は、7月中旬(10~13日)、下旬(28日~8月1日)に実施。

○ ベと病

- ・7月下旬の調査で、1地点で発生が確認されました。発生地点率は4.3%で平年(11.3%)よりやや低く、発病株率は0.3%で平年(4.2%)よりやや少ない状況でした。

○ 立枯性病害

- ・7月中旬の調査では、発生地点率は13.6%で平年(2.9%)より高く、発病株率は0.18%で平年(0.08%)よりやや多い状況でした。病徴から茎疫病による立ち枯れと推測されました。
- ・7月下旬の調査では、発生は確認されませんでした。

○ わい化病、ウイルス病(わい化病を除く)

- ・今回の調査では、発生は確認されませんでした。

○ ジャガイモヒゲナガアブラムシ・その他アブラムシ類

- ・7月中・下旬の調査では、発生は確認されませんでした。

○ 吸実性カメムシ

- ・7月下旬の調査では、発生地点率は8.7%で平年(2.9%)より高く、100株当たり虫数は0.09頭で平年(0.03頭)より多かった。

○ フタスジヒメハムシ

- ・7月下旬の調査では、発生地点率は21.7%で平年(14.4%)よりやや高く、25株当たり成虫数は0.57頭で平年(0.37頭)よりやや多い状況でした(図1)。

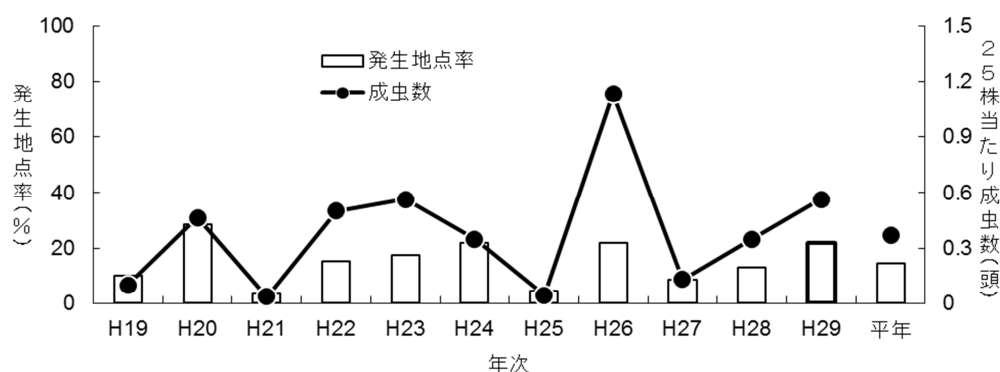


図1 フタスジヒメハムシの発生地点率と25株当たり成虫数(7月下旬)

○ ウコンノメイガ

・7月下旬の調査では、発生地点率は26.1%で、25株当たり葉巻数は3.7個でした(H24より実施のため平年値なし)。

○ チョウ目食葉性害虫(幼虫)

・7月下旬の調査では、発生地点率は50.0%で25株当たり2.7頭でした。主な加害種は、ウコンノメイガで、その他にウワバ類、サヤムシガ、オオタバコガ等が確認されました

・オオタバコガについては、定点調査ほ(古川農業試験場)に設置しているフェロモントラップの誘殺数が、7月上旬から増加しています(図2)。

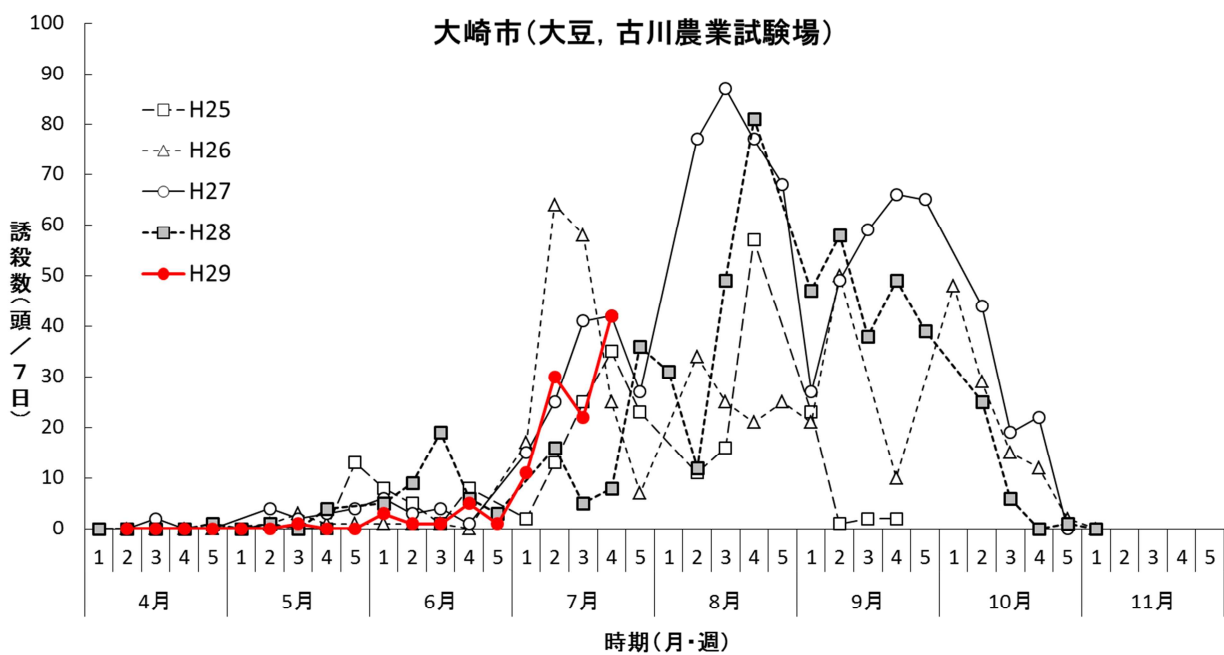


図2 オオタバコガ発生消長